

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070402138		
法人名	有限会社 笑和		
事業所名	グループホーム 笑和	ユニット名	一ノ庄
所在地	福岡県 北九州市小倉北区泉台2丁目7番19号		
自己評価作成日	平成23年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々をゆったりあせらず共に生きるを基本に！利用者同士が仲良く明るい笑顔で暮らす「家」(施設ではない)

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月15日	評価結果確定日	平成23年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム笑和は、永年、介護職として、高齢者福祉に従事していた仲間が集い、「施設ではない、和やかで笑いのある、真の家を…」との強い願いを持って、設立されたグループホームである。高台に2階建て2ユニットの居を構え、近くには市営住宅があり、地域住民と毎月2回開催される「ふれあいサロン」を通して、日常的に交流を深めている。また小学生のボランティアを定期的に受け入れたりと、地域住民の介護相談に応じる等、地域の中で、確かな存在感を発揮している。運営についても、2ユニットの良さを活かし、各ユニットは、各々、設立当初の思いにあるように、職員目線の行事を行うのではなく、入居者一人ひとりの思いや意向を大切に、個性を尊重した支援を行っている。入居者は、食事の買出しや準備、菜園作り、外出、運営会議への出席と、日々、各自の役割を担いつつ、楽しみながら暮らしている。同時に、家族や知人との途切れのないつきあいや、かかりつけ医の受診も継続され、安心して暮らせる配慮もなされている。これらを支えているのが、職員のチームワークに他ならない。各職員は、理念を踏まえ、効率重視ではなく、一人ひとりの思いや習慣、生活のリズム、身体の状態を尊重しながら、話し合を重ね、日々の業務に当たっている。その取り組みは、管理者が、設立当初に思い描いた「真の家」につながっていると語る。今後、「真の家」に益々近づいていくであろうことが予想される楽しみな事業所である。

い

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関ホール・事務所2ヶ所に掲示し、常に心がけ、黙読するようにしている。	設立時、管理者二人で話し合いながら、「法人の理念」、「介護理念」、「ホームの運営方針」を作り上げている。その内容は、地域密着型サービスの意義を踏まえながら、設立者の思いが詰まったものとなっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年より地域の方との交流「ふれあい市場」に参加。又、小学生のボランティア。推進会議等で交流は活発である。	月2回、近くで開催される「ふれあいサロン」に参加し、食材の買物や、リズム体操等の出し物を地域住民と一緒に楽しんでいる。顔なじみも増え、日常的な交流の場となっている。また小学生のボランティアを定期的を受け入れたり、介護に関する相談に応じる等、地域貢献に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や地域とのふれあい会にて顔なじみとなり、協力を得ている。相談に対応している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回現状を報告。利用者様の参加も含め、問題点や要望等を率直にかわし、意見を取り入れている。	地域住民や、自治会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員の参加で定期的開催している。活動状況の報告や、課題の検討、防災対策等について、活発な意見交換がなされている。入居者も可能な限り参加し、楽しみの場となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護サービス相談員の派遣をお願いし、利用者さんの不満や不安の解消に「橋渡し役」として協力を得ている。	相談や、質問等、必要があれば問い合わせを行っている。市からも生活保護対象者の入居等に関する問い合わせが多く、その都度、対応している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開放している。事故に繋がるおそれがあると思われる利用者様には職員間で意見をかわし、拘束しないケアに努めている。	職員は、身体拘束をしないケアについて、年間研修計画に位置づけ、職員間で理解を深め、禁止の対象となる行為や、弊害について周知している。また、徘徊のある方については、興味のあることを勧める等の代替手段を検討、試行する等、身体拘束をしないケアの実践に努めている。併せて、家族への情報提供も行い、理解を求めている。玄関には施錠をしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修やスタッフ会議、日々の生活の場面々で虐待につながっていないかを話し合っている。		

福岡県 グループホーム 笑和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の利用者はいない。研修を受けたり、入居時にパンフレットを渡し説明している。	現在、制度利用者はいないが、毎年、外部研修への参加と、その後の伝達研修の実施等、制度の理解と活用に努めている。入居時には、家族にパンフレットを渡し、説明する等、情報提供を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に渡し、内容を把握していただき、質問等に応じている。体験入居も実施している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の説明をしているが今まで寄せられたことはない。要望や意見はその都度お伺いしている。	市の介護サービス相談員の活用や、行事案内を家族に向けて行う等、意見や要望の収集、及び反映を行っている。家族の来訪時、コミュニケーションを図りながら、直接意見が言えるような雰囲気作りに努めている。	家族の面会が少ないことや、家族会の解散、事業所便りの中断等、入居者・家族が意見や要望を表す機会、職員にとっては、収集の機会が減少傾向にある。今一度、現状を踏まえた入居者・家族の意見の反映の場の構築、情報発信の再考を期待したい。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案は直接管理者に入ることが多い。個々の内容について検討し、反映させている。	ユニットごとに、定期的、及び必要に応じて、スタッフ会議を開催している。意見の言いやすい雰囲気、活発な意見交換、提案がなされている。管理者は、それを受けて、運営への反映を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や実績等を鑑み、適切な評価をしている。働きやすいよう条件を聞き入れる。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については特に制限はない。年齢も多様です。職員とのコミュニケーションを図り、職員の能力が發揮できるよう働きやすい環境作りに努めている。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から、排除することはない。実際に多様な年齢層の職員が勤務している。また資格の有無を問わず、重視されるのは意欲である。採用後は、職員一人ひとりの能力や経験が發揮されるよう、管理者は機会の創出に努めている。特にレクリエーション時に、その能力の發揮が顕著に見られる。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に人権の尊重を謳っている。日常的に入居者様と良好な関係を結ぶことを心掛けている。	人権の尊重については、理念の中でも謳われており、言葉遣いを始め、接遇面全般で、日々の仕事を通して、人権教育、啓発活動がなされている。	

福岡県 グループホーム 笑和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ここ最近では外部研修が数できていないのが現状である。新人職員には経験豊富な職員が指導にあっており、実務を通して学んでいる。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回交流会を持ち、施設訪問を行っている。相互の問題点等の意見を交わし、反映させる努力をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご家族からあらゆる事情を伺い、又入居後も状態を観察、傾聴しながら信頼関係を築き、安心した生活が送れるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、ご家族の介護の悩み、入居後も率直に意見を交わしながら良い関係づくりに努力している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご本人、ご家族がホームでの生活の中で何を一番望んでいるのかを伺い、実践に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様の「できること」「できないこと」を把握し、強制することなく普通の生活を支援している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に面会や外出の機会が多く持てるよう願っている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来訪あり。入居前に行っていた会合に参加する方もいる。地域へ出向くことにより、新しい馴染みの場所作りもできている。	家族に働きかけ、連携をとりながら、買物や墓参り等、馴染みや行きつけの場所に出掛ける支援を行っている。併せて、現在続いている友人・知人の来訪も、継続できるようコミュニケーションを図りながら、関係の途切れない支援に努めている。	

福岡県 グループホーム 笑和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔なじみだった利用者様もいます。談話の機会を多く設け、常にひとりにはしない努力をしている。入居者様もお互い助け合い、手伝う姿が見られる。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も会いに伺ったり、身寄りのない方へは寂しい思いをさせないように、入居時と同様のお付き合いをしている。ご家族からの相談もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常々利用者様の悩み、要望がストレートに口にできる関係作りに努めている。困難な場合、ご家族に相談する。	日頃から、コミュニケーションを密に取り、思いや意向、悩み等を言い易い雰囲気作りに努めている。困難な場合は、家族からの情報や、普段の何気ない会話、行動の中から、潜在する思いの把握に努め、本人本位の支援につなげている。	各職員が把握している、入居者一人ひとりの思いや、好むこと、習慣、生活歴等、職員間で共有化し、より効果的な支援につながるよう記録化(例えば、アセスメントや経過記録等)することを期待したい。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、今まで「やっていたこと」「行っていた所」をホームの生活の中に取り入れ今までの生活が少しでも維持できるよう検討している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態に合わせた生活を支援している。強制することなく自由に過ごしていただくことも大いにある。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直し、又状態変化により適時介護計画を変更している。その際、家族ドクターの意見も反映し作成している。	アセスメント、及び家族や日々のかかわりの中から得た情報を基に職員間で話し合いながら、介護計画の作成、及び見直しを行っている。見直しについては、基本は3ヶ月であるが、状態変化に応じて、臨機応変に実施している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノート、ひやりハットなどで情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム 笑和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経営者が介護職員と現場に入っており、直に状況が把握できる。要望により柔軟に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の利用者様には行きつけの病院、美容室を利用している。介護相談員、ボランティア(歌、ヨガ)の方々にも協力を得、楽しんでいただいている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診あり。その都度個々の状態について報告している。かかりつけ医は本人、御家族の希望に沿うようにしている。	一人ひとりの希望を大切に、かかりつけ医への受診を尊重している。協力医の往診は、週に1、2回あるが、その他の受診についても、家族と協力し、本人が納得出来る医療機関で行っており、安心して適切な医療が受けられるよう努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師出勤時、状態を報告、相談し日々の健康に努めている。リハビリも行う。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、度々面会に伺い状態を把握、病院関係者との話し合いの場を持ち、長期入院となった場合はその後の相談にも乗っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての事前の確認を書面にし、同意を得ている。ホームとしてはまだ実践はできていない。	看取りに関する独自の指針、及び、5項目からなる事前確認書を備え、事業所の方針を説明するとともに、本人・家族の意思確認を行っている。いずれの内容も丁寧で分かり易い内容である。結果的に看取りには、至っていないが、家族や医師と話し合いながら、ぎりぎりまで支援を行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の応急手当の訓練は定期的には行っていない。緊急の場合は救急車を要請することを基本に考えている。		

福岡県 グループホーム 笑和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、体制派整っている。避難訓練は休日の職員も参加し行っている。運営推進会議にて議題とし、協力を得ている。	年に2回、避難訓練を実施している。消防署の立会いもある。運営推進会議の議題に取り上げ、地域を始め、参加者に協力を仰いだり、避難場所・方法について、消防署や警察に相談する等、日頃から災害対策に備えている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体面の羞恥心への配慮だけでなく、個人情報や言葉遣いなど一人一人を尊重した対応に心掛ける。	一人ひとりの人格やプライバシーの尊重については、理念にも謳っており、職員は、日々の業務の中で、入居者のライフスタイルや、言葉遣い、羞恥心、生活歴、信仰等に配慮しながら、本人本位の支援に努めている。また個人情報の取り扱いについても、適切に行っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中でご本人の思いが言える環境作り、人間関係に努力している。最初から否定することはしない。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床時間も個々に合わせている。一日の流れの中でも個人のペースを大切に思って支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている利用者様は思うがままにおしゃれを楽しんでいる。自ら判断できない方へは職員が気配りしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っている。おやつは手作りで手伝いもある(たこ焼きの具材切り他)。昼食は職員と共に会話しながら食べる。	入居者の好みを踏まえ、栄養士資格を持つ職員が、栄養バランスに配慮した献立を作成している。一人ひとりの状態に応じた形態での食事提供を行っている。入居者は、スーパーへの買出しを始め、準備やおやつ作りを職員と一緒に等出来る範囲での役割を担っている。また外食に出掛ける等、食事を楽しめるような手立ても講じている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取を記録。摂取困難者は個々に合わせた形態で提供している。水分もとろみをつけたりゼリーにしたりと工夫し、一定量は摂っていただいている。		

福岡県 グループホーム 笑和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアを行う。歯磨き後チェックをし指導や介助も行う。定期的に訪問歯科診療も受けている方が数名いる。</p>		
45	(19)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>日中は全員トイレにて排泄。定時、随時誘導。排泄パターンの把握。表情等を観察し失敗を防ぐよう努力している。</p>	<p>排泄チェック表にて、一人ひとりの習慣や、パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	
46		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事や運動に心掛けている。便秘症の方には定期薬として下剤をいただいている。</p>		
47	(20)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴は週3回、昼間に実施している。個々の状態に合わせ支援している。入浴剤使用などで楽しんでいただく。</p>	<p>基本的に、週に3回、昼間に入浴を行っている。入浴を好まぬ方が多い中、入浴剤や、希望に応じてローションを使用する等、少しでも快適であるよう工夫している。</p>	
48		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>車椅子使用者、体力に乏しい高齢者はベッドやソファでの休息の時間を持つ。日中の活動にて安眠できるよう支援している。</p>		
49		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員へは薬の内容等が分かりやすいようにファイルしている。又、随時薬においては連絡帳にて理由、薬名、服用方法を記している。</p>		
50		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の得意分野や生活体験を活かした役割や楽しみごとの支援をしている。例：カラオケ、菜園、ドライブ等</p>		

福岡県 グループホーム 笑和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族の方との外食、買い物、墓参り、奥様への面会などご家族にも協力を得ている。ホームからは行事として敬老、花見、祭見物、外食など出かけるが行き先の希望は出ない。</p>	<p>日常的に、事業所周辺を散歩したり、スーパーへ食材の買出しに出掛ける等の支援を行っている。また家族に働きかけ、外食や買物、墓参り等に出掛ける機会を確保している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物へ行った際、お金を渡し支払いをお願いする。個々のお金はご家族により預かっている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族、知人からの電話の取次ぎ、又ご本人希望の場合、いつでも使えるようにしている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング、玄関、廊下に季節に合わせた飾りを行っている。常に清潔に心がけ清掃。室内は全体的に落ち着いた色調、木の質感を出している。快適に過ごせるよう室温調節も行っている。</p>	<p>台所は、リビングに面し、調理の様子が五感を通して味わえる等、生活感がある。和室は、12畳と広々としたスペースが確保されている。他にも、リビングと廊下にソファを置く等、各自が、くつろげつような配慮がなされている。壁面には、様々な絵画等が飾られ、暮らしに潤いを与えている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人一人が思うがままに居場所を見つけ寛いでいる。長椅子で気の合った方々で談笑される場面も多い。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使用していた家具、寝具、又飾り物など慣れ親しんできた生活を忘れない安心できる空間作りをしている。</p>	<p>居室は、和室と洋室の2タイプがあり、ベッドが備え付けられている。各部屋には、使い慣れた調度品や、好みのものが持ち込まれており、本人が居心地の良く過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室など分かりやすく表示。各居室に表札をかけ、安全を考慮し手すりを畳部屋上り口にも取り付けしている。</p>		